

第1部門A 伝統・日本

航空書簡 すずき やすひろ 鈴木 康弘 (大阪府) ③

航空書簡の制度が日本で1949年に誕生して、昨年2023年に終了するまで約74年半でその歴史を終えました。料金収納済の国際封緘はがきとも言えるもので、特に遠方あての場合は航空書状よりも料金が安く、広く普及しました。今年は航空書簡75年に当たります。官製航空書簡の昭和時代に焦点を絞り、実運便を中心に、製造面(版欠点、印面変種、用紙シェードなど)、消印(和文櫛型印・機械印・丸型印、欧文櫛型印・三日月印・丸型印など)、使用例(適正単独使用、料金の値上げ・値下げ、別配達や書留などの特殊料金、航空書状や国内使用などの目的外使用)といった変化を加えて、なるべくわかりやすく丁寧に構成展示してみました。

